

国指定史跡

塚崎古墳群

○大隅半島最古の古墳群

「塚崎古墳群」は、野崎塚崎台地上に広がる「日本最南端」の前方後円墳を持つ古墳群です。昭和20年に、国指定史跡に指定されています。ここには多くの古墳があります。

その数は、なんと59基（前方後円墳5基、円墳54基）。

そのほかに地下式横穴墓という全国でもこの地域にしかない独特な古墳時代の墓が約30基あります。発見されているものだけ数えているため、未確認を含めるとかなりの数の古墳が築かれていたと考えられます。



▲壺形埴輪（現 25 号墳出土）



▲須恵器甕（現 41 号墳出土）

「塚崎古墳群」が造られたのは、4世紀〜5世紀代（今から約1400〜1600年前）だといわれています。大隅半島で一番初めの時期に造られた古墳群だとされています。当時、最新の古墳文化がこの地域で取り入れられていました。今回紹介するのは、塚崎古墳群から出土した甕（かめ）・壺形埴輪（はにわ）・小型丸底壺（つぼ）の計3点です。

現在の大阪府堺市で焼かれたもので、もうひとつの甕は、現在の愛媛県伊予市で焼かれたものと分かりました。この地域が当時から広い範囲で交流があったことを物語る貴重な資料です。

壺の形をした埴輪（はにわ）は、一般的に知られる、人型の埴輪よりも古い時代に作られたものです。小型丸底壺も4世紀代という古い時代に築造された古墳を示す貴重な壺で、これらの土器の発見は、塚崎古墳群が、かなり古い歴史を持つことの証明の一つとなっています。

小型丸底壺（現 31 号墳出土）▼



「発掘された日本列島2021」展へ
塚崎古墳群から出品中！

近年発掘され、特に注目された出土品を中心にした展示を構成し、全国を巡回する「発掘された日本列島」展を、文化庁等が平成7年度から主催しています。

今年の列島展は、当町の国指定史跡「塚崎古墳群」から4点出品されています。普段は、肝付町立歴史民俗資料館（肝付町野崎）にて、展示されている土器です。

大隅半島の志布志湾沿岸地域の古墳群として、塚崎古墳群（肝付町）・唐仁古墳群（東串良町）・横瀬古墳（大崎町）・立小野堀遺跡（鹿屋市）・町田堀遺跡（鹿屋市）からそれぞれ出品され、日本各地を巡ります。お近くにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

▽以下の会場で公開(予定)

東京都江戸東京博物館 (東京都墨田区) 6月5日(土)～ 7月4日(日)
苫小牧市美術博物館 (北海道苫小牧市) 7月31日(土)～ 9月12日(日)
群馬県立歴史博物館 (群馬県高崎市) 10月9日(土)～ 11月21日(日)



▲出展の様子（東京都江戸博物館）

お問い合わせ先 肝付町教育委員会 生涯学習課 ☎ 0994(65)2594